

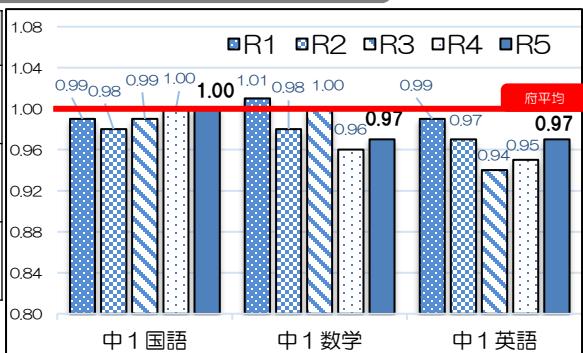
調査の概要

- 調査実施日 令和6年1月10日（水）
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
 - ◆学力に関する調査 1年生（国語・数学・英語） 2年生（国語・社会・数学・理科・英語）
 - ※2年生の社会・理科は各校の指導計画に応じて「A問題」と「B問題」から選択します。本市において、今年度は、社会では4校がA問題、1校がB問題を選択、理科ではA問題を1校、B問題を4校が選択しました。
 - ◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）全11問
- 調査参加者 1年生（府全体 58,293人 うち、本市参加者 562人） 2年生（府全体 57,275人 うち、本市参加者 595人）
- ※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部分です。

1年生

教科別平均点・対府平均比経年比較

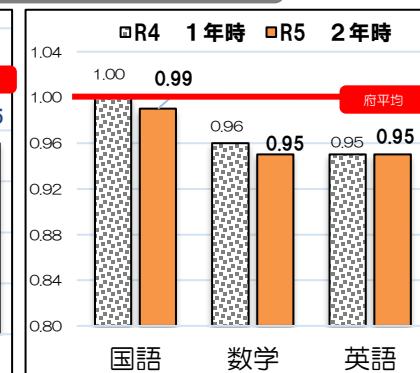
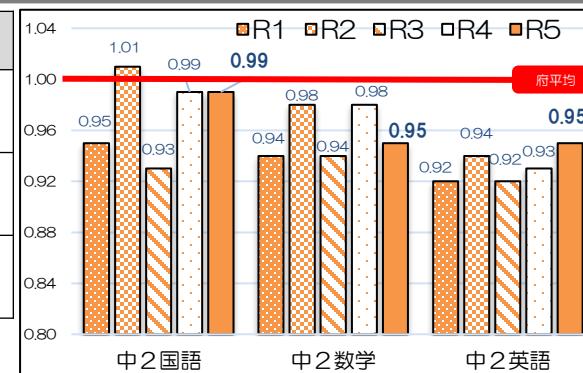
	国語	数学	英語
本市平均点	60.9	53.0	62.1
大阪府平均点	60.8	54.7	64.1
対府平均比	1.00	0.97	0.97



2年生

教科別平均点・対府平均比経年比較及び同一集団での対府平均比経年比較

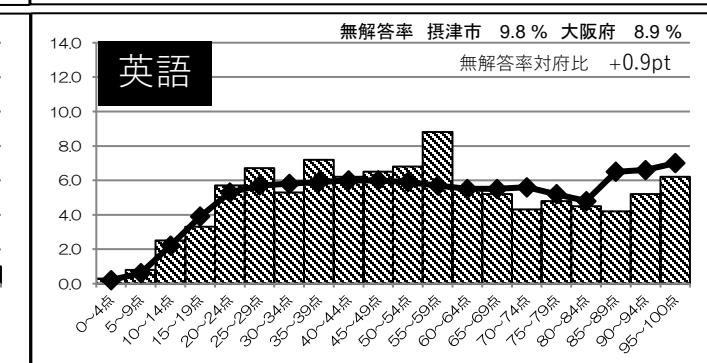
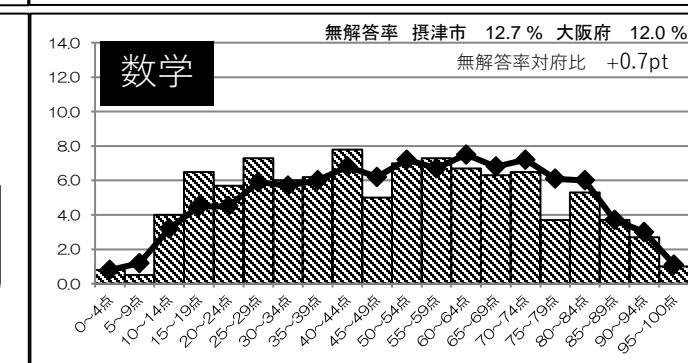
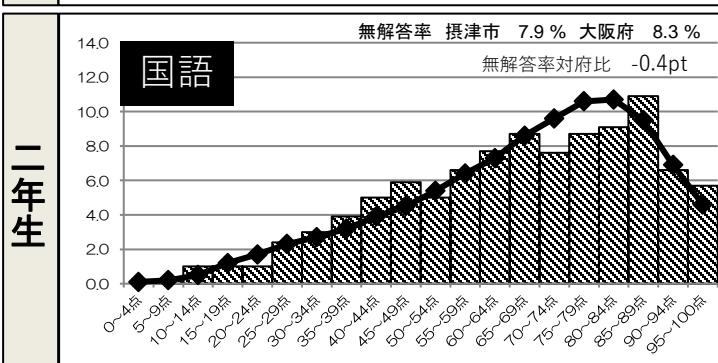
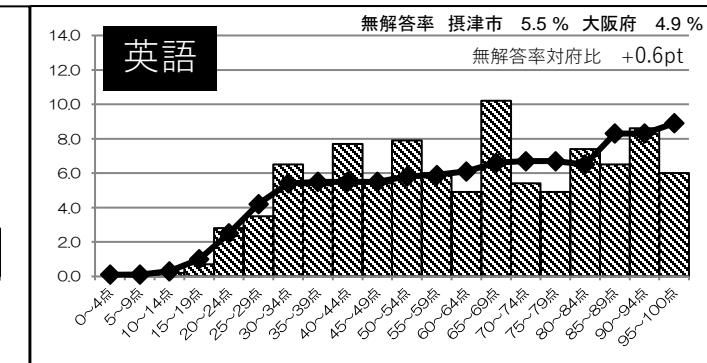
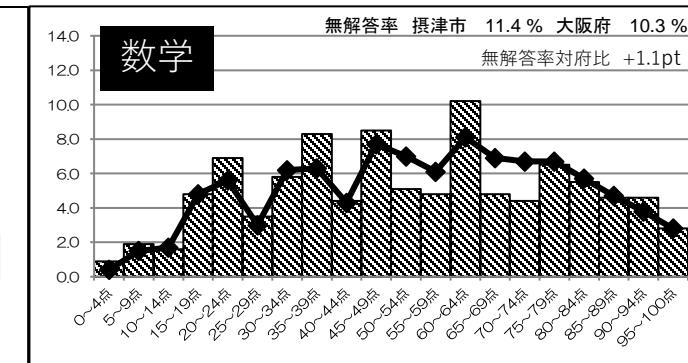
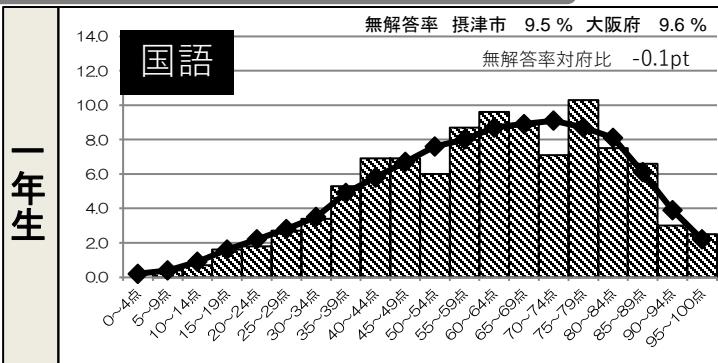
	国語	数学	英語	社会	理科
本市平均点	66.1	49.4	54.4	49.9	33.5
大阪府平均点	66.8	52.2	57.1	53.8	40.3
対府平均比	0.99	0.95	0.95	0.93	0.83



社会はA問題を4校、B問題を1校が選択、理科はA問題を1校、B問題を4校が選択したため、全体の総数から平均点を算出しております。

教科別得点分布・無解答率

■ 摂津市 ▲ 大阪府



調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】

1年生の国語において、府平均と並び、昨年と同等の結果となりました。小学校段階から、授業でつける力を明確にし、ICT機器を活用した対話的に学ぶ場面を多く設定する等、授業改善が進んだ結果であると考えております。数学・英語については、府平均は下回りましたが、昨年より高い結果となりました。

2年生においては、国語で府平均にわずかに届かず、数学・英語では府平均を0.05pt下回る結果となりました。昨年と比較すると、国語は横ばい、数学は0.03pt低下、英語は0.02pt改善しました。

2年生同一集団を経年で比較すると、国語・数学・英語で、ほぼ横ばいという結果となりました。

【教科別得点分布・無解答率】

英語では、国語・数学に比べ、1年生・2年生ともに上位層が少ない傾向があり、課題であると考えております。

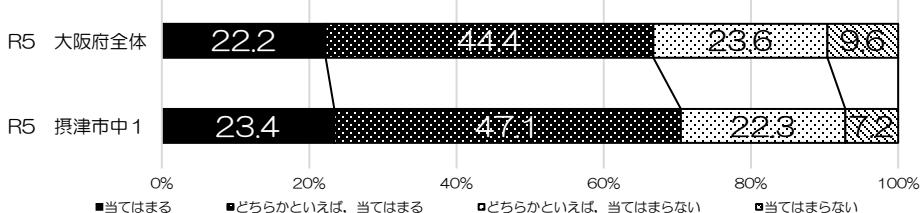
無解答率対府比については、1年生・2年生ともに数学・英語において府の平均より高い結果となりました。一方、国語では、記述式の問題で府平均より低い結果となっており、最後まで諦めずに問題に取り組んでいる姿勢が見られました。

今後に向けて

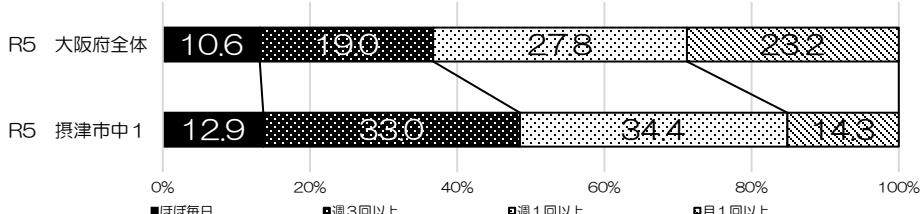
- 教育委員会では引き続き、各校の取組への適切な指導や助言を行い、成果を上げている学年・教科の好事例について市内全校で共有できるよう、以下のように支援していきます。
- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 児童生徒と学習計画や授業の目的・目標を共有し主体性を育む授業づくりや、話し合い活動・相互評価等を組み込むことで互いの良いところを認め合うことができる授業づくりを、市内全体で推進していきます。
- 一人一台のICT端末の効果的な活用方法について、各学校の好事例を共有するとともに、より効果的な活用についての指導・助言を行います。
- 学校の学びと社会をつなげる「キャリア教育」を充実させ、生徒の「自分らしい生き方を実現するためにもっと学びたい」という学習意欲を高める取組を推進していきます。

中 1

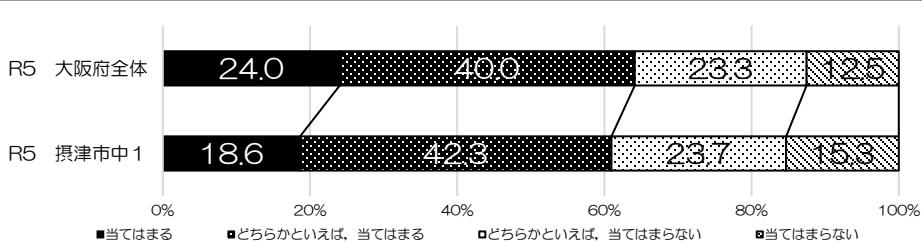
①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある



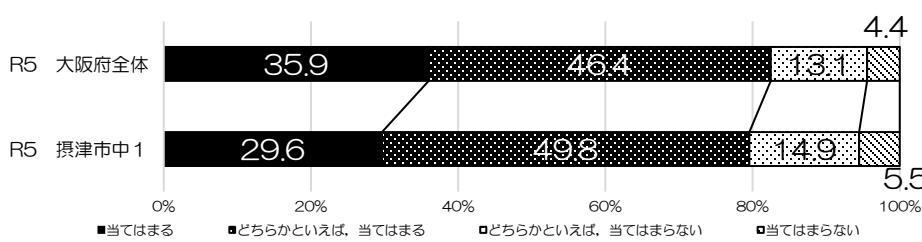
②授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか



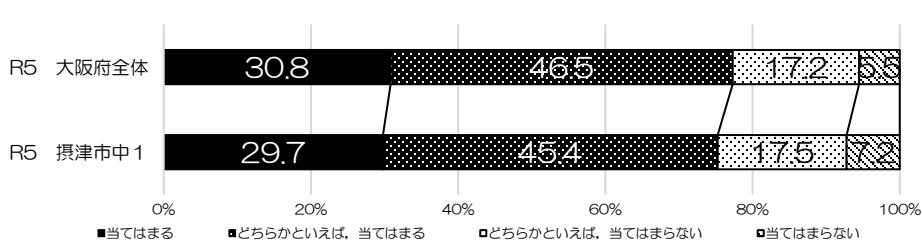
③家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している



④あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある

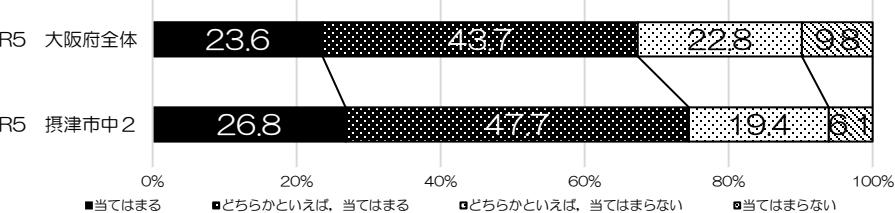


⑤難しいことがあっても、あきらめない

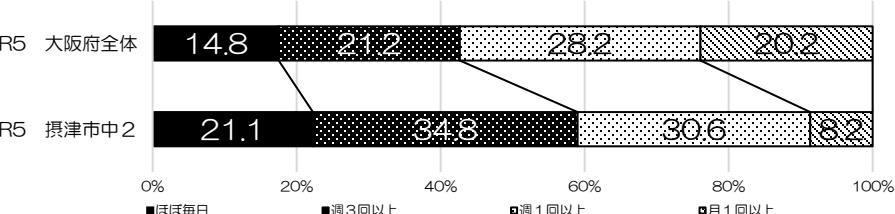


中 2

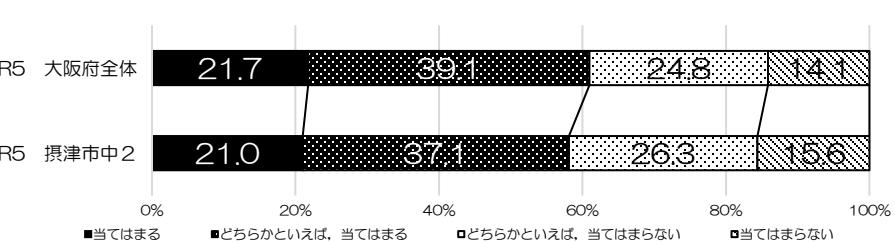
①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある



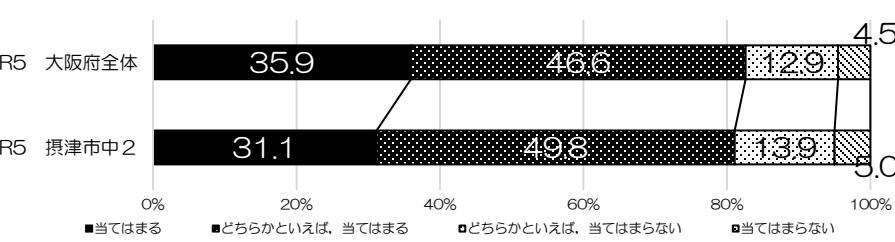
②授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか



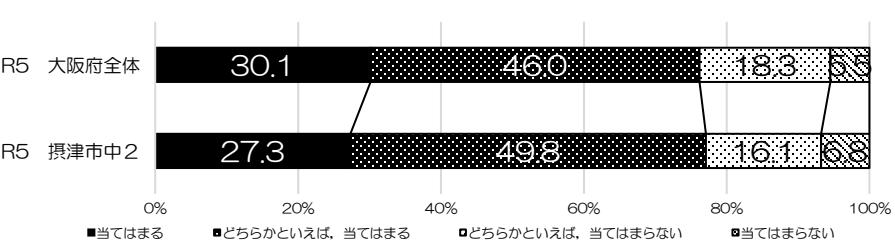
③家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している



④あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある



⑤難しいことがあっても、あきらめない



生徒アンケートについて

【ICT機器を活用して自分の考えを書く・まとめる】

1・2年生ともに、質問項目①②の肯定的回答の割合（※）が府平均を上回り、授業でICT機器を活用した学習が日常的に行われております。特に、2年生の質問項目②では、強い肯定回答が府平均を6.3pt上回っており、協働学習の場面等でも多くの学校で活用されている結果となりました。

また、自分の考えを整理してまとめる力や学習した内容を自分の言葉でアウトプットする力などが身につけてきており、これまで摂津市で力を入れてきたICT機器を活用した授業改善の成果だと考えております。

【主体的な家庭学習】

質問項目③では、1・2年生ともに府平均と比較して、肯定的回答の割合が下回る結果となりました。

特に1年生では、強い肯定が5.4pt下回っていることから、授業や様々な教育活動の中で、生徒自身が「もっと学びたい」と思えるような仕掛けを行うとともに、引き続き、中学校区の小中学校で連携した「家庭学習週間」の取組等を実施し、主体的な家庭学習習慣の定着をめざします。

【学級等の集団づくり・キャリア教育】

質問項目④において、府平均と比較して、肯定的回答の割合が下回っております。この項目については、いじめや暴力行為、不登校などの生徒指導の諸課題につながる可能性のあるものとして考えております。その改善にむけて本市では、生徒同士で互いの良いところを価値づけるなどして絆を深め、学校が居心地の良い場所となるよう取組を行っております。

質問項目⑤において、府平均と比較して、1年生は肯定的回答の割合が下回っておりますが、2年生ではほぼ同等となりました。2年生で実施した「職種体験プログラム」や「社会人トーク」等のキャリア教育の取組により、非認知能力等を育ててきた成果であると考えております。

《家庭へのお願い》

○学校での授業の様子や宿題・課題の内容について、時には一緒に問題を解いたり、意見を交わしたりしながら、子どもたちとたくさん話す機会を作っていただきますようお願いします。

○スマートフォンやゲーム機等の節度ある適切な使用について、家庭でよく話し合い、ルールを決めるなどの対応をお願いします。

○家庭学習の定着・積み重ね・習慣化が、子どもたちの力となり、中学3年時の進路選択や、その後の未来を生き抜く力に大きく関わります。家庭学習ができる環境を整え、子どもたちを見守り応援していただきますようお願いします。

※肯定的回答の割合とは、選択肢うちの「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計を表します。